

平成24年度当初予算案の特色

《予算編成の考え方》

市民の暮らしの質を高め、都市の成長を確実なものとしていくため、選択と集中により、財政規律と投資のバランスを図りながら、真に必要な施策は積極的に事業化を進め、福岡という都市の価値を戦略的に高める予算を編成

暮らしの質の向上

安全・安心の確保

防災

- ★東日本大震災を踏まえ、地域防災計画を全面的に点検・見直し
- ★災害時要援護者台帳の活用などにより地域の避難活動を支援、災害対応支援システムを充実
- ★避難場所の標高調査及び標高標記を推進
- ★安定ヨウ素剤や簡易トイレの備蓄
- ★大規模災害に対応した災害救助資機材(高度放射線測定器等)を整備
- ★防災センターに津波・水害体験施設を整備

防犯・マナー

- ★地域の街頭防犯カメラ設置に対する助成制度を創設〔30万円／台〕
- ☆警固公園を安全・安心のシンボルとして人々が憩い交流できる空間へと再整備
- ★暴力団壊滅、飲酒運転撲滅及び性犯罪抑止に向けた広報啓発や推進体制を強化
- ★安全・安心のまちづくりに関する条例制定を検討
- ・自転車の安全利用に関する条例制定を検討
- ★車道における自転車走行空間を整備

再生可能エネルギーの活用と省エネの推進

創エネ

- ★メガソーラー発電設備を導入〔西部(中田)埋立場への設置〕
- 〔新青果市場への設置検討〕
- ★スマートコミュニティの構築に向けて、モデル地区における太陽光等3電池住宅整備への助成を実施

省エネ

- ★中小企業の省エネ診断や定期的な専門家派遣経費に対する助成を実施
- ☆家庭の省エネで削減できたCO2排出量に応じて交通ICカードのポイントを付与
- ☆住宅用太陽光発電設備に対する助成を拡充〔1,000件→1,500件〕
- ★既設道路照明灯や地域防犯灯のLED化を推進

「ユニバーサルシティ福岡」の実現

国際化

- ★国際ユニヴァーサルデザイン会議の開催〔日程:平成24年10月12～14日〕
- ★ユニバーサルシティ福岡フェスティバルの開催〔関連事業:公共施設障がい者アート事業、ときめきプロジェクト等〕
- ★小中高の児童生徒によるユニバーサルなまちづくりの調査・点検・実践発表会等を実施
- ★国内地下鉄初となる券売機4カ国語対応システムを導入

施設のバリアフリー

- ★公共によるバス停上屋やベンチの設置検討、モデル事業を実施
- ・鉄道駅施設のバリアフリー化に対する助成〔★西鉄三苦駅エレベーター設置〕
- ★既設市営住宅の共用階段へ手すり設置、段差解消等

高齢者

- ★災害時に支援が必要な方に緊急連絡先などの情報を保管する専用キットを配付
- ★成年後見人の新たな担い手として、市民後見人を養成
- ★介護支援ボランティアにポイントを付与する制度を創設
- ・特別養護老人ホーム建設に対する助成〔401人分着工〕

障がい者・児

- ☆障がい者グループホーム等に対する助成及び設置箇所を拡充〔上限額:100万円→150万円、設置箇所:6箇所→18箇所〕
- ★在宅酸素療法者の酸素濃縮器に係る電気料金を助成
- ★発達障がい児に放課後等の活動の場を提供(2施設)
- ☆LDやADHD等障がいのある幼児・児童生徒の支援を行う支援員を増員〔96人→120人〕

子ども

- ★休日・夜間において虐待等に関する相談支援や安全確認を行う体制を充実
- ★民生委員の訪問時に赤ちゃん誕生のお祝い品を配付
- ☆民間保育所整備費等に対する助成〔730人分〕
- 〔1,100人分→1,400人分(補正前倒し分670人分含む)〕

人と投資を呼び込み、好循環をつくる

都市の成長

将来を担うグローバルな人材の育成

- ★釜山広域市の英語体験施設「釜山グローバルヒレッジ」に全中学校から選定した70名を派遣
- ☆中学校・高等学校にネイティブスピーカーを配置〔政令市トップクラスの週1時間(年間35時間)〕
- ★小中学生を対象として、子どもたちだけでまちづくりを疑似体験する「ミニ・ふくおか」を開催
- ★学校以外の学びや体験の場として「中高生夢チャレンジ大学」を開催

都市の機能や魅力の向上

ゲートウェイ

- ・都市高速道路の環状化〔H24夏頃福重ジャンクション部供用予定〕
- ・アイランドシティへの自動車専用道路の早期導入に向けて調査・検討を実施
- ☆地下鉄七隈線延伸の早期着工に向けて調査・設計等を実施
- ☆クルーズ客船の誘致・受入体制を充実〔審査手続きの迅速化、連絡バス運行等〕
- ☆箱崎ふ頭における国際・国内ROROターミナル整備

都心再生

- ・拠点文化施設(市民会館)の基本計画策定に向けて機能や事業手法等を検討
- ★拠点文化施設と一体となった須崎公園の再整備計画を検討
- ★特定地域指定により官民一体で都心再生を推進

コンテンツ

- ★コンテンツ・エンターテインメント都市づくり会議の設置、コンテンツ・フェスタ開催
- ★コンテンツ産業のアジア・欧米ビジネスの出口戦略を検討
- ☆福岡ファッションブランドの販路拡大を支援
- ★インターネットの活用や九州フードビジネス協議会の設置により「福岡の食」のブランド化や販路拡大を支援

戦略的な観光・集客

歴史・文化

- ★承天寺周辺道路に辻堂口門を建設
- ★鴻臚館跡整備の基本構想策定に着手
- ★国指定史跡吉武高木遺跡の整備

デジタル

- ★デジタル技術を活用し、鴻臚館跡や福岡城跡の当時の情景を体感
- ★来訪者が携帯端末等で利用できるガイドシステムを構築
- ★歴史文化資源とデジタル技術(プロジェクションマッピング)の融合による新たな魅力づくりに向けた社会実験を実施

魅力発信

- ★無料の公衆無線LAN環境を整備〔地下鉄全駅、本庁舎1F等〕
- ★福岡市の歴史、祭り、伝統工芸、方言などに関する「福岡検定」を実施
- ★テレビやインターネット等によりアジアへ観光情報を発信
- ★外国映画撮影を誘致

コンベンション

- ★第2期展示場の整備に向けた検討
- ☆コンベンション開催助成金を拡充〔総枠30,000千円→57,000千円〕
- ★大規模スポーツ大会の開催・誘致を検討〔フルマソン開催、フィギュアスケート・グランプリファイナル誘致〕

積極的な投資の誘引

- ★企業立地促進交付金制度の拡充等により積極的な企業誘致を推進
- ☆元岡地区において第二産学連携交流センターを整備、有機光エレクトロニクスの実用化を促進
- ★グリーンアジア国際戦略総合特区の推進
- ★アイランドシティにおいて公・民・学の連携による「まちづくり情報発信センター」を設立・運営
- ☆アイランドシティにおけるコンテンツに関する高度人材育成・研究開発拠点機能等の形成に向けた検討

財政規律と投資のバランス

財政健全化の取組み

- 捻出した財源 **88億円**
- 総定員 **▲27人**
- 外郭団体 **▲3団体**
- 市債残高(全会計) **▲126億円**
- 実質公債費比率 **▲1.0ポイント**

歳入・歳出一体見直し等により88億円の財源を捻出

1. 歳入・歳出一体見直し
 - 収入・収納率の向上
 - ・市税〔H23当初:95.95%→H24当初:96.16%〕
 - ・市営住宅使用料〔H23当初:95.78%→H24当初:96.21%〕
 - 多様な財源の確保(市施設自販機の公募化等)
 - 人件費の抑制
 - 施設管理の効率化(指定管理者制度の導入等)
2. 資産・債務の圧縮(保有資産の活用・売却等)
3. システム・手法の改革(局予算制度による経費削減等)

民営化等により総定員を▲27人純減

- 職員数 **▲27人**〔H23:9,784人→H24:9,757人〕
- ・保育所の民営化 **▲13人**
- ・中央営業所業務の民間委託※(財)水道サービス公社 **▲10人**
- ・本庁舎警備業務の民間委託 **▲5人** 等

外郭団体を23年度末に1団体、24年度末に2団体廃止

- (財)下水道資源センター廃止〔H23年度末〕
- (財)海づり公園管理協会の廃止〔H24年度末〕
- (財)健康づくり財団の廃止〔H24年度末〕

全会計市債残高を▲126億円縮減

- 全会計ベースの市債残高 **▲126億円**〔H23末見込:2兆4,883億円→H24末見込:2兆4,757億円〕
- 一般会計の市債発行額 **+30億円**〔H23当初:720億円→H24当初:750億円〕
- 〔※地方交付税の代替措置である臨時財政対策債を除く市債発行額 **▲9億円**〔H23当初〕365億円→H24当初:356億円〕
- 実質公債費比率 **▲1.0%**〔H23当初:16.1%→H24当初:15.1%〕

行財政改革の計画策定

時代にあった柔軟で果敢に挑戦する市役所をめざし、行財政改革の新たな計画を策定

- 行政改革プランの策定
- 財政健全化プランの策定

さらなる
行財政改革の推進